京王電鉄社会環境報告書 2005

KEIO

編集方針

京王グループは、つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、「信頼のトップブランド」になることを目指しています。そのためには省エネ、リサイクルなど環境保全に積極的に取り組むとともに、お客様をはじめとする、さまざまなステークホルダー（関係者の方々）との間に「信頼関係」を築きあげることが必要となります。
本報告書では、京王電鉄の環境保全に関する情報を開示すること、ならびにお客様・地域社会・行政・株主・社員といったステークホルダーと、どのような活動を通じて、どのような関係を築いているかをお伝えすることを目的としています。
今後も、報告書の発行を通じてさまざまな情報を開示し、皆様とのコミュニケーションを図ることで、企業活動および報告書の継続的改善に役立てていきます。
巻末にアンケート用紙を挟み込みましたので、ご意見、ご感想などをお寄せいただければ幸いです。

＜報告範囲・報告時期＞
◎本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）の報告書です。
◎環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2004年度のデータです。
◎活動事例は、一部2004年度以前・以後の事例、および京王グループの事例を含みます。

もくじ

■ トップメッセージ …… 3
■ 京王グループのCSR …… 5
■ お客様とつながりあう …… 7
　鉄道事業 …… 7
　開発事業／京王グループ …… 11
■ 地域社会とつながりあう …… 13
■ 行政とつながりあう …… 15
■ 株主とつながりあう …… 16
■ 社員とつながりあう …… 17
■ 地球とつながりあう …… 19
　事業部門別の環境負荷 …… 21
　鉄道事業 …… 23
　開発事業／京王グループ …… 25
■ 環境会計 …… 29
■ 報告書に関する専門家の意見 …… 30

会社概要

社名 京王電鉄株式会社

会社設立 1948年6月1日

本社所在地 〒206-8502
東京都多摩市関戸1丁目9番地1
（登記上の本店所在地 〒160-0022
東京都新宿区新宿3丁目1番24号）

資本金 59,023百万円

営業内容
・鉄道事業
・開発事業
（土地、建物の賃貸業・販売業など）

鉄道事業

- **路線** 京王線、高尾線、相模原線、競馬場線、動物園線、井の頭線
- **駅数** 69駅
- **営業キロ** 84.7km
- **輸送人員** 年間5億9,887万人（2004年度実績）
- **車両数** 848両（貸車5両含む）

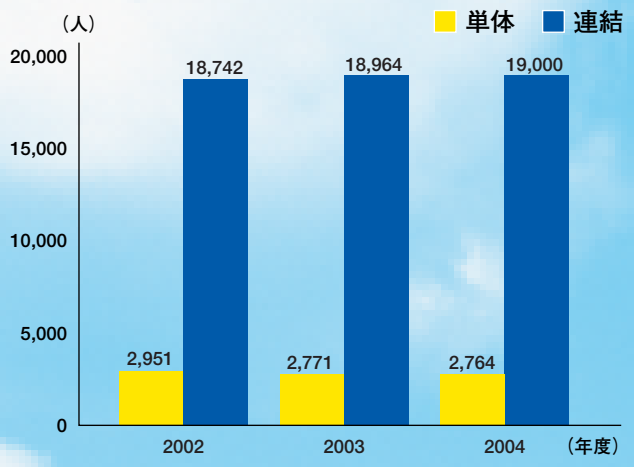
開発事業

- 新規賃貸資産の開発
- 賃貸資産の管理・営業
- ショッピングセンターの管理・運営
- 住宅地等の販売

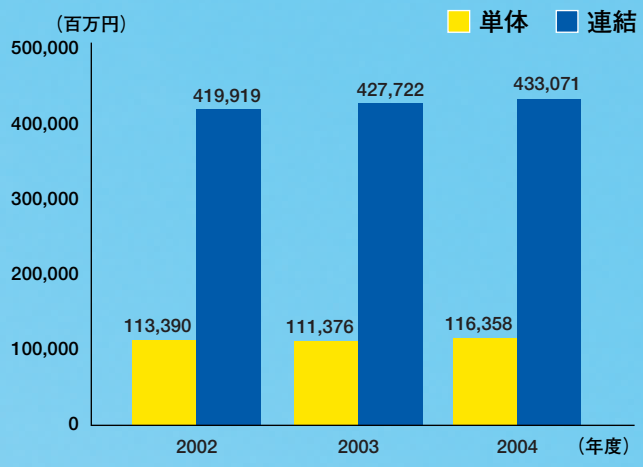
グループ会社数

- 全41社

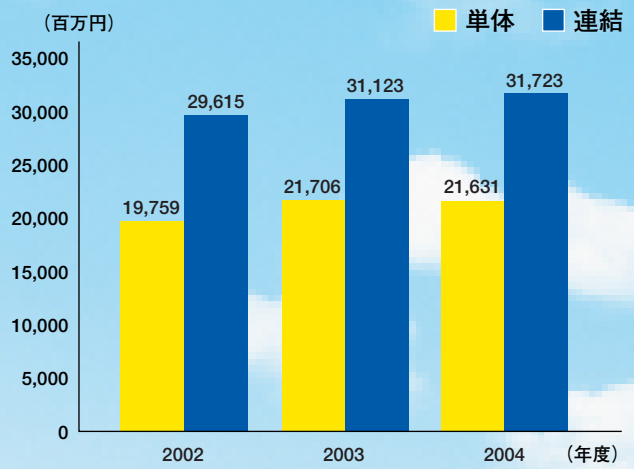
従業員数



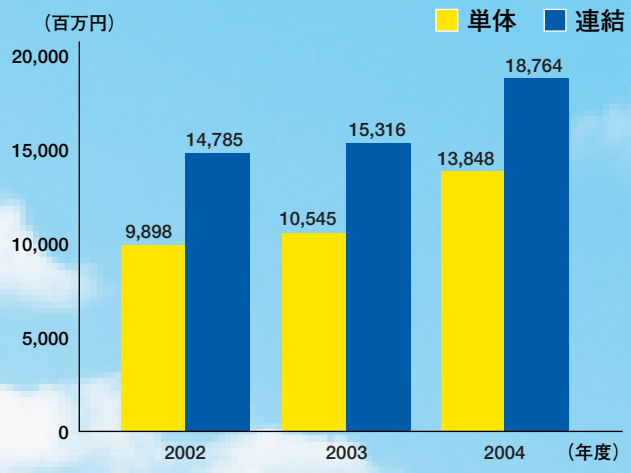
営業収益

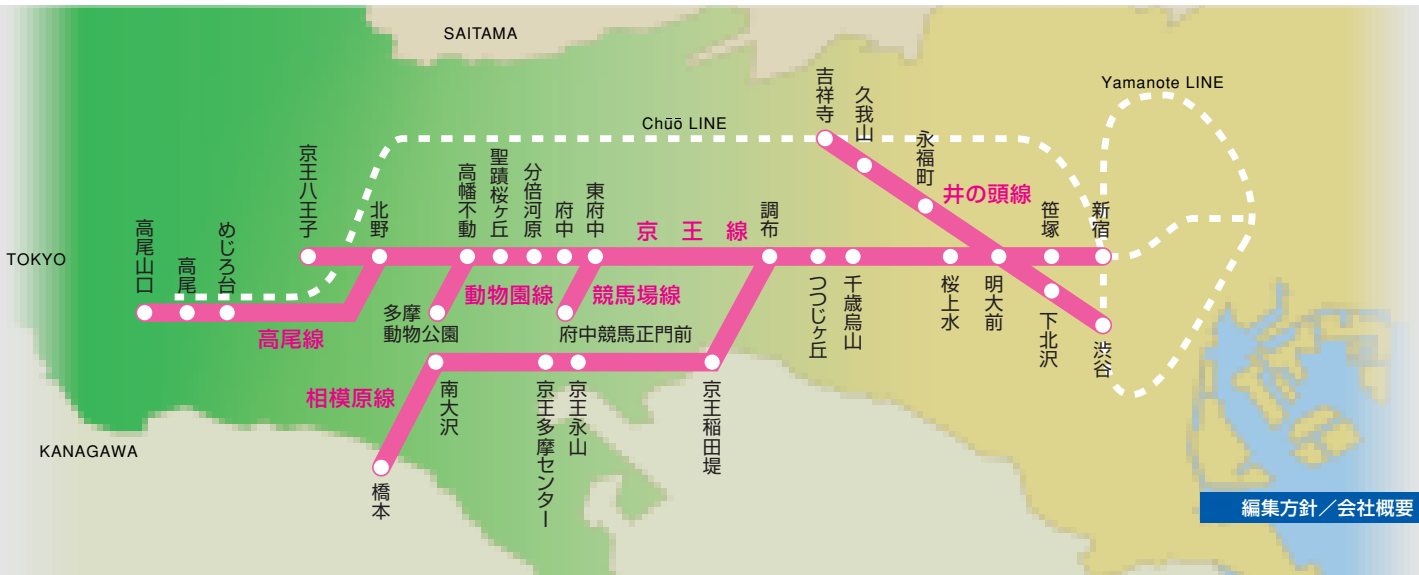


経常利益



当期純利益





つながりあうすべての方へ
「信頼のトップブランド」となるために、
社会的責任を果たしていきます。

今までに築いてきた信頼を高めていくために、今一度「コンプライアンス」に立ち返りました。

京王グループはつながりあうすべての方へ「信頼のトップブランド」になることを宣言しています。これは他と比べて明確なアドバンテージがなければ認められないことで、非常に高いハードルではありますが、グループ価値を向上させる以上、目指すべき「目標」であり、わかりやすいキーワードではないでしょうか。

例えば、鉄道という公共交通事業を主要事業とする当社にとって、安全は最大の使命であり、「信頼のトップブランド」のためにも第一番に取り組むべきことでありますが、幸い連続22年間運転無事故を達成、継続しています。

また、財務面において、当社の格付け、収益力は業界トップレベルの評価をいただいておりますが、このことは投資家や学生の方にとって「安心できる会社を選びたい」というニーズに対するひとつの答えになるでしょう。

社会・環境面でも、当社は先進の自負を持って取り組んでおります。古くは関東の私鉄で初めて通勤車両に冷房をつけたり、近年では女性専用車両をいち早く導入したことや、使用済み定期券をリサイクルしてつくったエコベンチが日本初の取り組みであったことは、その好例といえます。

コーポレート・ガバナンスの面では、私鉄業界初の重要財産委員会を設置するとともに、取締役会への報告事項を拡大し、迅速な意思決定と監督機能の強化を実現しています。さらに、業務プロセスの透明性を確保することも重要であるとの認識から、2005年4月、コンプライアンスの確保、財務報告の信頼性の確保、業務の有効性・効率性の確保を目的とした、グループの内部統制に関する基本方針を制定しました。

そのコンプライアンスですが、世間では企業活動を行っていくうえで当然のことであって、改めていうまでのことはない、というのが従前の考え方でした。しかし最近では、その当然のことができていないことによる不祥事が相次いでおり、各企業で明示的な取り組みがなされています。京王グループにとっても今まで築いてきた信頼を維持し、高めていくための根幹であることから、2004年4月より京王グループ・コンプライアンス・プログラムをスタートさせ、「京王グループ行動規範」を制定したほか、「コンプライアンス委員会」の設置、グループ内の専用相談窓口である「京王ヘルプライン」の開設など、体制を整備しました。このように、日頃から自由闊達に意見を伝えることができる状況・雰囲気づくりを大切にしています。

継続性・普遍性を大切に考え、日々挑戦を続け、京王グループの価値向上を目指します。

企業活動を通じてお客様、株主、地域社会、社員、すべての方のご期待に沿い、ご満足いただけるよう、常に高みを目指すことが大切で、今改めて企業価値が問われている時代だと思います。私は社長就任以来、社員に向けて「世の中の変化に対応して仕事を改革していってください」ということを言い続けています。世の中の変化、すなわち「グローバル化」「経済状況の変化」「価値観・意識の多様化」「少子高齢化」の4つの変化を踏まえ、京王グループのスローガンである「あなたとあたらしいあしたへ」をイメージし、まだ京王をご存知ない方の生活にも、当たり前のものとして溶け込んでいけるよう、日々考え、挑戦を続けなければなりません。当社には進取の気性が息づいています。遡ること34年の1971年、当時の新宿に日本一の高さとなる京王プラザホテルを建設したことや、1997年、鉄道大手で戦後初となる運賃値下げはその象徴といえるでしょう。

新しさにはインパクトがありますが、やがて陳腐化する以上、継続性、普遍性が重要であり、これが大変なことだと実感しています。

鉄道・バスのご利用促進や、完全循環型のリサイクル事業など、社員一人ひとりが本業を通じて環境保全に取り組みます。

京王グループが地球環境の負荷軽減のために何ができるかを考えれば考えるほど、鉄道・バスの果たすべき役割、責任の大きさを痛感します。東京は世界で最も公共交通手段の発達している都市のひとつですから、例えばマイカーで通勤される方に鉄道・バスの利用をご検討いただけるよう、安全、快適で誰もが利用しやすい輸送サービスを実現するための努力を続けなければなりません。鉄道のエネルギー使用量は、自動車の10分の1で済むとも言われています。鉄道事業はそれ自体が環境保全に資するわけです。鉄道の利用を促進することは、環境負荷の小さい社会を実現することにつながります。そのためにも安全・安定運行やバリアフリー化に日々努めております。

循環型社会の形成という点では、2004年8月に鉄道業界で初めて、グループ各社から排出される生ゴミをリサイクルして有機肥料とする事業に関わりました。この有機肥料はそのまま消臭剤としての効果があるため、食品リサイクルから生まれたバイオ消臭剤として、京王電鉄が発売元となり、市販いたしており

ます。もちろんご使用後は有機肥料として使えますので、完全循環型のリサイクル事業です。京王ストアではこの肥料を使って育てた、ほうれん草、水菜などの販売を始めています。

また、環境活動の継続的推進を図る専任部署を当社に設置するとともに、2004年12月、「京王グループ環境基本方針」を制定しました。現在、本社を中心に環境マネジメントを推進していますが、目標達成に向けたアプローチを初めて聞いたときは正直なところ、細かすぎるのではないかと感じました。しかしながら啓発活動を続け、昼休みの消灯を徹底させることでこれだけ効果があったという報告を受けるとともに、京都議定書発効後の現状を考えますと、このような積み重ねもますます無視できなくなると、思いを新たにしました。

このほか開発事業やグループ各社でも事業特性に応じた環境負荷が発生しています。事業活動を遂行するなかで、社員一人ひとりが高い環境意識を持って、事業の成果はもちろん、それと連動して環境の面でも効果をあげていけるように取り組んでいきたいと思っています。

安全性や快適性の高いサービスを提供することで、将来にわたって持続的に成長できる京王グループを目指します。

京王グループは、2003年度を初年度とする「連結中期経営計画」に沿って、事業の採算性を吟味しながら、厳しい経営環境の下で、将来にわたって持続的に成長できるグループづくりを目指しています。

2004年度連結決算は、流通業や運輸業が減収減益となりましたが、不動産業、レジャー・サービス業などで増収増益でした。結果として営業収益は4,330億円（前期比1.3％増）、当期純利益は187億円（前期比22.5％増）となり、ROAは6.8％（前期比0.1P低下）、ROEは10.7％（前期比1.5P向上）となりました。これらは連結中期経営計画で目標値を定めています。最終年度となる2005年度での達成に向け、ベストを尽くします。

連結営業利益の半分以上は運輸業からなり、鉄道事業では安全性をさらに高めるため、各種保安度向上策を実施しています。私自身、本年4月に輸送安全総点検も行いましたが、社員は日頃からしっかりした仕事をしていると感じています。

バス事業は2004年4月と6月に終車延長を含む、夜間・深夜帯の輸送力増強を行いました。路線網も京王沿線をほぼ網羅し、増加する深夜の旅客需要に応えるとともに、安全で快適な帰宅手段を提供しています。利便性を高めることにより、長年続いていたお客様のバス離れに歯止めがかかり、お客様の支持を回復しつつあります。

育成を続ける生活関連事業では、京王ストア3店舗、啓文堂書店5店舗など新規出店を加速させる一方、啓文堂書店の既存店では6店舗の改装・増床を行いました。宿泊特化型ホテルとして好評の「京王プレッソイン」は、2,000室規模達成に向けて6店舗が既に営業しておりますが、2005年度中に、さらに1店舗が営業を開始する予定です。また、京王品川ビルの竣工と吉祥寺エコービルの取得など優良賃貸資産の拡充も積極的に進めております。

このほか、「高尾の森わくわくビレッジ整備等事業」の施設改修工事が完成し、2005年4月にオープンしました。この施設は、新たな青少年のための社会教育の場として東京都がPFI方式により整備するもので、京王グループが中心となり、社会教育の分野で豊富な実績を持つ東京YMCAグループとともに運営していくものです。

京王電鉄は、このたび「社会環境報告書」を初めて発行いたします。今後も、当社、当グループの社会貢献や環境保全に対する取り組みを詳しくお知らせするとともに、皆様からご意見をいただきながら、活動の改善や、よりわかりやすくお伝えするようにしてまいります。

京王電鉄株式会社 取締役社長

加藤 奥

京王グループ
の
CSR

社員一人ひとりが、社会から信頼されるブランドを築いていきます。

京王グループは、グループ理念として「信頼のトップブランド」になることを、社会に対して宣言しています。その実現に向けて、2004年4月、「京王グループ行動規範」を制定しました。この中で、私たちは、事業に関わるすべてのステークホルダーを尊重すること、社会に貢献すること、環境保全に取り組むことなど、企業としての社会的責任を果たしていく意思を表明しています。私たちは、社員一人ひとりが、企業の社会的責任に対する正しい認識を持ち、行動することによって、社会から信頼されるブランドを築いていきます。

京王グループ 理念

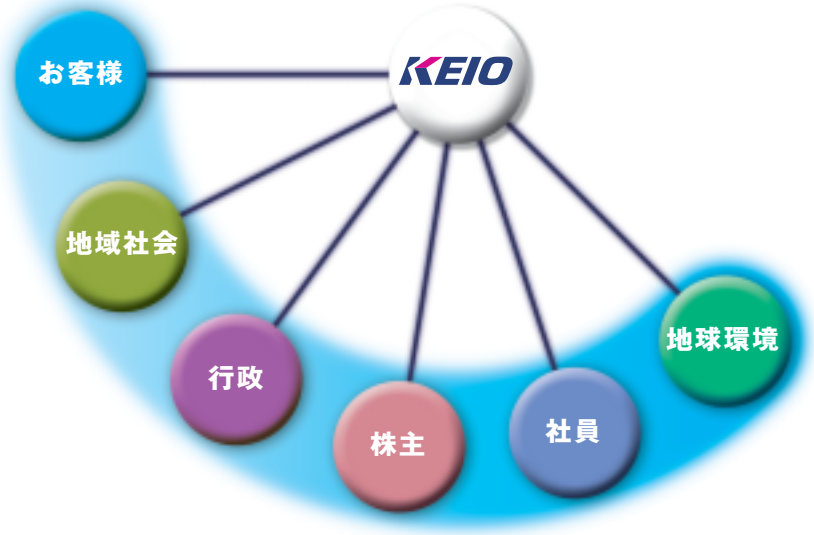
私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって、
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

2003年1月1日制定

京王グループ スローガン

あなたと あたらしい あしたへ――京王グループ

京王グループとのつながり



京王グループ行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、
私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規定を遵守し、健全・公正な企業活動を行って企業価値の向上に努めます

- 全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- 法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- 反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- 社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方

コンプライアンスは、一般的に「法令遵守」と訳されますが、京王グループでは、法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応えることが京王グループの取り組むべきコンプライアンスであると考えています。

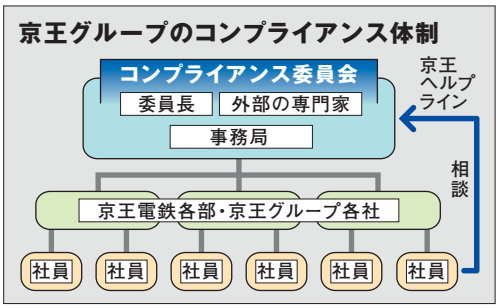
コンプライアンスに取り組む目的は不祥事の起きにくい風土をつくること。誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得することです。

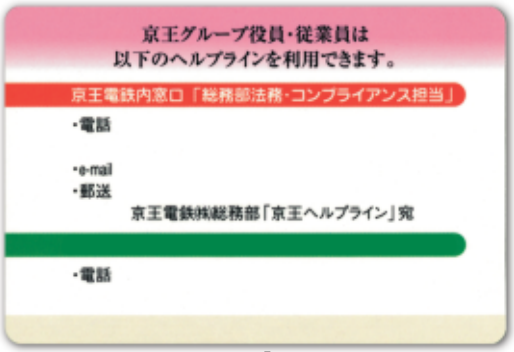
京王グループのコンプライアンス体制

「京王グループ行動規範」をグループ全体に浸透させ、継続的に取り組んでいくため「コンプライアンス体制」を構築しました。この体制の特徴として、「シンプルなコンプライアンス委員会」「誰もが相談しやすいヘルプライン」の2つがあげられます。

「コンプライアンス委員会」は、委員長、外部の有識者、事務局によるシンプルな組織となっています。委員長は取締役会によって選任され（現在は常務取締役のうちの1名が担当）、その諮問機関としての外部有識者（弁護士・会計士など）を置いています。事務局は、京王電鉄の総務部と広報部が務めています。この委員会は、コンプライアンス上の問題が生じた際に適切な解決を図る機能も持っているため、ただちに集まることのできる機動性を重視しています。

また、何かおかしいことに気づいたり、悩みを抱えたりした社員が、身近に相談できる窓口として、「京王ヘルプライン」があります。「京王ヘルプライン」は、京王電鉄の法務・コンプライアンス担当と外部の法律事務所の2箇所に設置しています。周知を図るために、行動規範とヘルプラインの連絡先を明記した名刺大のカードを全社員に配布しています。





グループ社員に配布されている「京王ヘルプライン」カード

京王グループ コンプライアンスブック

社員一人ひとりが行動規範に則った行動とは何かを理解し、実践できるよう、行動規範の解説と、さまざまなケーススタディを記載した「京王グループ コンプライアンスブック」を発行し、グループ社員に配布しています。この冊子は、コンプライアンス研修※の教材としても活用しています。

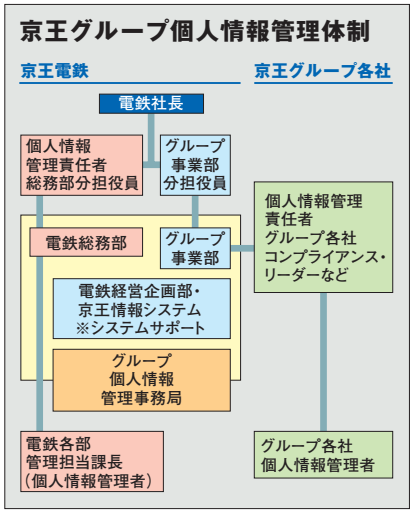
※研修については、17～18ページを参照。

京王グループコンプライアンスブック

個人情報保護

個人情報保護の考え方

社会から「信頼」される京王グループであるためには、個人情報を正しく取り扱うことも重要です。京王グループでは、2005年4月の「個人情報保護法」全面施行にあわせ、「京王グループ個人情報保護方針」を定めるとともに各社での個人情報管理体制の強化を図ってきました。



京王グループ個人情報保護方針

個人情報の収集、利用、提供に関する事項、安全対策に関する事項などについて、グループ全体の基本方針となる「京王グループ個人情報保護方針」を定め、ホームページ上でも公開しています。

当社が事業活動を行う上で、お客様の個人情報を取り扱う際の考え方として、「お客様との信頼関係維持を第一に」適切な手続きを実施するべきだと考えております。具体的な手続きについては、社内規程で定めております。

また、個人情報の安全対策を重要な課題と認識し、個人情報が「漏れない」「なくさない」「盗まれない」「改ざんされない」を合い言葉に、独自のチェックリストによる点検を実施したほか、システムセキュリティを強化するなど、安全性向上のための施策を推進しています。

お客様とつながりあう

すべてのお客様に、安全・快適にご利用いただけるよう努めています。

京王電鉄の鉄道事業は、「京王線」と「井の頭線」などからなり、東京都西部地域を中心に神奈川県北部にも一部またがる84.7kmの路線を、1日約165万人のお客様にご利用いただいています。多摩ニュータウンをはじめ、沿線に多くの住宅地を抱える当社線は、通勤通学路線として首都圏交通の一翼を担う一方、明治の森高尾国定公園の中心である高尾山などの行楽地への交通手段としても重要な役割を果たしています。京王電鉄は2004年10月に「連続22期鉄道運転無事故事業者表彰」を受賞しました。今後も「信頼」の絶対条件である安全性の向上に努めていきます。また、鉄道という環境負荷の少ない交通手段を、より多くのお客様にご利用いただけるよう、快適性の向上に取り組んでいきます。

列車の衝突防止対策

列車の衝突を防止するため、全線に多情報変周式ATS（自動列車停止装置）を採用しています。このATSは信号の表示パターンに対応する速度をチェックし、決められた速度を超えた場合、自動的にブレーキがかかり、速度を下げる方式です。また、ATSの仕組みを応用して、過走や誤出発、列車種別の勘違いを防止する装置を設置しています。さらに車両には、停車駅の接近告知や停車警告などにより、停車駅を誤って通過することを防止する装置のほか、運転士が不測の事態によりハンドルから手を離した場合、自動的に非常ブレーキがかかり列車を停止させる装置、車掌が強制的に非常ブレーキをかけることのできる装置を搭載しています。

列車の脱線防止対策

車両の脱線防止策

左右の車輪にかかる荷重のばらつきを計測する輪重測定装置を導入し、荷重の適正なバランスを保つよう調整を行っています。また、車輪の形状については、脱線防止対策として推奨されている形状のものを従前から使用しています。

線路の脱線防止対策

半径300m以下の曲線、道床のない橋梁、踏切などにガードレールを設置しています。また、定期的に検測機器による計測管理を行い、適正な線路の状態を保つよう努めています。

脱線防止のガードレール

ホーム安全対策

間隙注意灯、スレットライン

曲線ホームなど、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう場所での乗り降りにご注意いただくため、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯、スレットラインを新宿駅など15駅に設置しています。

隙間をお知らせするスレットライン

列車接近放送装置

列車がホームに接近していることを音声でお知らせする装置を68駅に設置しています。

車両外幌

ホームから車両連結部へ転落する事故を防ぐため、すべての車両の連結部に外幌を設置しています。

車両外幌

非常通報ボタン、転落検知装置

万一、お客様がホームから転落した場合などに、駅係員またはお客様がホーム上の「非常通報ボタン」を押すことにより、乗務員などに非常を知らせる装置を全駅に設置しています。また、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう駅には転落を検知するマットを設置しています。

非常通報ボタン

ホーム下退避スペース

ホームの下には緊急時に避難することができる、退避スペースを設置しています。また、退避スペースのないすべての箇所には、ホームに上がりやすくするためのホーム下ステップを設置しています。

ホーム下退避スペース

踏切安全対策

踏切解消への取り組み

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切道の整理統合による踏切の解消を図っています。連続立体交差化については、1964年に京王線の新宿～初台間を地下化したのを皮切りに事業を順次進め、1993年3月に長沼・北野駅付近を、また1994年3月には府中駅付近をそれぞれ高架化しました。立体交差化などによる踏切道の整理統合の結果、踏切数は1955年度の322箇所から1998年度末には156箇所に減少し、現在に至っています。

踏切障害物検知装置

しゃ断桿が降りた後に、踏切道内に立ち往生した自動車などの障害物を検知することができる踏切障害物検知装置を91箇所の踏切道に設置しています。

踏切障害物検知装置

踏切支障報知装置

踏切内で事故発生の危険性が生じた場合に、ボタンを押すことで列車の運転士に異常を知らせることのできる踏切支障報知装置を110箇所の踏切道に設置しています。

踏切支障報知装置

調布駅付近連続立体交差事業

調布駅付近の連続立体交差事業※を東京都、調布市と協力しながら進めています。具体的には京王線の柴崎駅～西調布駅間の約2.8kmと相模原線の調布駅～京王多摩川駅間の約0.9kmを地下化し、国領駅、布田駅、調布駅の3駅が地下駅となります。本事業により、鶴川街道や狛江通りなどの道路との立体交差を図ることで、18箇所の踏切道を廃止することにより、道路交通の円滑化や運転保安の向上が図られるとともに、安全で快適なまちが実現されます。

※連続立体交差事業
連続立体交差事業は2箇所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として都道府県、政令指定都市、県庁所在都市、人口20万人以上の都市、特別区が実施する都市計画事業として行われ、その財源はガソリン税、自動車重量税などをもとにしています。

TTCによる列車運行管理

TTC（列車運行管理システム）は列車の進路設定、発車ベル、行先案内板、旅客案内放送などを自動制御するほか、気象条件等を把握するなど、列車の運行を円滑に行うシステムです。事故発生時などには、このシステムが列車の位置や遅れなどの状況を総合的に判断し、運転指令員による運行ダイヤの整理・復旧を早期に行えるようサポートします。

TTC（列車運行管理システム）

異常時対策

地震対策

沿線5箇所に設置した地震計が震度4以上の地震を感知した場合、地震情報早期伝達システムが作動し、列車の乗務員へ無線により自動的に警報を伝えることで、列車を迅速に停止させます。その後、震度に応じて必要な点検を行い、時速25km以下の注意運転を行うとともに、状況に応じて順次通常運転に復旧していきます。

各種訓練

防災週間（8月下旬～9月上旬）にあわせて総合防災訓練を実施しているほか、韓国の地下鉄火災を教訓とした地下駅火災訓練、事故発生に備え正確で迅速な情報伝達、および速やかで適切な対応を目的とした現業による合同訓練、大規模事故が発生した際の情報連絡に重点を置いた本社部門を対象とする緊急対応訓練を実施しています。

すべてのお客様に快適で便利な鉄道を目指しています。

よりスムーズに移動していただくための取り組み

エレベーター、エスカレーター

駅構内にエレベーター、エスカレーターなどの設置を進めています。エレベーターは31駅に68基、エスカレーターは29駅に100基設置しています。このうち8駅15基のエスカレーターは車いす対応です。

車両とホーム床面の段差縮小

車両とホーム床面との段差を小さくし、乗り降りをしやすくするために、新宿駅などでホーム床面のかさ上げを行いました。また、車両とホームとの間に渡す車いす用スロープ板を全駅に備えています。このほか、車いすスペースを京王線9000系車両・8000系車両と井の頭線1000系車両の全編成に設置しています。

幅広自動改札機

幅広自動改札機

車いすをご利用のお客様や大きな荷物をお持ちのお客様などにご利用いただけるよう通路幅を広くした自動改札機を34駅に設置しています。

よりわかりやすいご案内への取り組み

列車運行情報サービス

事故や災害などにより、列車の運行に大幅な遅延が発生した場合などに、全駅の改札口や一部の電車内に設置した電光表示板のほか、京王のホームページや携帯電話のサイト「京王ナビ」などにより、運行情報をお知らせするサービスを行っています。

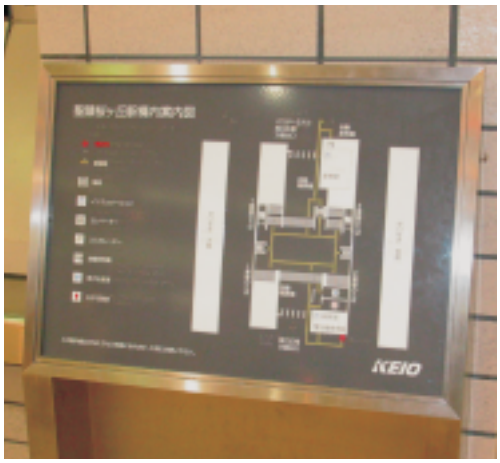
行先案内板

列車種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内板を、急行系停車駅を中心とした27駅に設置しています。

行先案内板

触知総合案内板

ピクトグラム（絵文字）や、駅構内の設備の位置などを触って確認できる凹凸や点字のついた触知総合案内板を21駅に設置しています。



触知総合案内板

筆談器

耳の不自由なお客様への対応として、全駅に筆談器を備えています。

筆談器

車内電光表示板・ドアチャイム

車内のお客様に次の停車駅などを文字でお知らせするLED式の電光表示板と、車両のドア開閉を音でお知らせするドアチャイムを、新造する京王線9000系車両・井の頭線1000系車両のほか、既存の車両にも順次設置しています。

車内電光表示板

運賃表の文字拡大

運賃表をより見やすくするため、運賃表の文字拡大を進めています。これは、文字の大きさを従来の約1.5倍に拡大するもので、新宿駅（京王西口）、明大前駅などで実施しています。

快適にご利用いただくための取り組み

だれでもトイレ

現在56駅に、車いすをご利用のお客様にもお使いいただける個室トイレがありますが、このうち52駅のトイレは、赤ちゃんをお連れのお客様などが安心してご利用いただけるよう、折りたたみのベッドや乳児用のいすを設置しています。これらのトイレのほとんどは、入口付近で点字による案内を行っているほか、内部障がいをお持ちのお客様にご利用いただける水洗器具を設置しています。

だれでもトイレ

ホーム待合室

電車到着までの間、お客様が快適にお待ちいただけるよう、冷暖房付きの待合室を36駅65箇所に設置しています。

ホーム待合室

女性専用車両

2000年12月の週末に試行運転を実施し、その反応を踏まえて、2001年3月のダイヤ改定にあわせて、平日23時以降に新宿駅を発車する急行系列車（現在9本）の最後部1両を女性専用車両として運転していました。

2005年5月からは、女性専用車両を平日朝・夕の通勤時間帯に拡大しています。

女性専用車両

定期券の全駅発売（インターネット予約）

全69駅で定期券（通勤定期券および継続発売となる通学定期券）の発売を実施するとともに、京王ホームページ上で、新規通勤定期券の予約ができるサービスを実施しています。

お忘れ物管理システム

「お忘れ物管理システム」を全駅に導入しています。このシステムの導入により、全駅およびお忘れ物取扱所で検索が可能になり、忘れ物の有無が従来より早くわかるようになりました。

マナー向上への取り組み

京王マナー川柳

1998年からスパイスの効いた川柳と、漫画家・やくみつるさんのユーモアあふれるイラストで、電車やバスのマナーアップを呼びかけています。2001年からは川柳の一般公募を開始し、多くの方々からの作品が寄せられています。

交通安全教室ビデオ

切符の買い方や電車の乗り方など電車の利用方法と、電車を利用する際のルールやマナーについて、子供たちにより理解を深めてもらうために、「交通安全教室ビデオ」を運転士自身が製作・出演し、沿線の小学校・幼稚園に提供しています。

優先席付近での携帯電話の電源OFF

各車両の優先席を2箇所に設置するとともに、医療機器をご使用のお客様に配慮して、優先席付近では携帯電話の電源を切っていただくよう呼びかけています。

終日全面禁煙

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙を防止するための措置として、終日全面禁煙を全69駅構内で実施しています。

すべてのお客様に、
快適な商業施設やバスを目指しています。

ショッピングセンターのバリアフリー

「地域のお客様の生活に密着した、上質感のあるショッピングセンターづくりに取り組んでいます。」

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター
支配人　福田 淳

京王電鉄ではショッピングセンター（SC）のバリアフリー化も、行政やお客様とのコンタクトをとりながら推進してきました。京王聖蹟桜ヶ丘SCでは、お体の不自由なお客様や、赤ちゃんをお連れのお客様にも安心してご利用いただける「だれでもトイレ」の整備をはじめ、身障者用駐車スペースの大幅な増設、入口扉の自動化、段差の解消、手すりの設置、案内サインの視認性向上、さらには救急に関する従業員教育などを実施しています。また、受動喫煙防止策として、完全分離タイプの喫煙室を設けたほか、飲食店舗には混雑時間帯の全面禁煙、その他時間帯の禁煙席の設置をお願いし、実施しました。なお、トイレ改修の取り組みについては、2004年12月、東京都から「福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状」が贈呈されました。

さらに、2004年度に新規オープンした京王高幡SC、京王リトナード若葉台においても種々のバリアフリー施設を導入するなど、今後も沿線商業施設のバリアフリー化に積極的に取り組んでいきます。

研修（高齢者 疑似体験）の様子

京王百貨店のバリアフリー

京王グループ「京王百貨店」は、多くのシニア層のお客様から支持されており、安心・快適にご利用いただけるよう、各階に休憩場所を設けるなど、きめ細かな対応を行ってまいりました。

バリアフリーの視点では、1997年の改装に伴い、正面玄関をスロープ仕様にしたことに始まり、一部のエレベーターを車いす対応としたほか1階から8階までの各階に「だれでもトイレ」を設置したことなどがあげられます。テナントに対しても「売場改装指針書」に基づき、床をフラットにすることや、フィッティングルームに手すりを設置することなどをお願いしています。また、店内には、社内研修を継続的に受けている44名の手話ができる社員が接客に当たるほか、8階の介護用品売場では介護福祉士がお客様のお手伝いをしています。

人材育成に関しては、2001年よりNPO「プレジャーサポート協会」の協力を得て、「ハートフル・サポーター研修」を実施しています。セミナーに加え、視覚・聴覚障がい、車いす疑似体験や高齢者疑似体験などを行います。これまでに70回開催しており、約600名の管理職・一般社員の研修が完了しています。また、2005年4月からはお取引先販売員も研修の対象としました。今後も、人材育成とともに売場の改装に伴う施設のバリアフリー化を進めていきます。

手話による接客

京王プラザホテルのバリアフリー

京王グループ「京王プラザホテル」のバリアフリーに関する取り組みは、1988年世界リハビリテーション会議の開催会場となったことが端緒となりました。施設の改修や接客についての取り組みを客室担当を中心に進め、1998年からは、全社的な取り組みとして、新入社員教育にも障がいのあるお客様の接客の心構えなどを研修に取り入れました。2002年には、ユニバーサルルームも拡充し、現在では25室になっています。

同年、「バーズアイ」という接客にあたる部署を中心にした社内公募プロジェクトも立ち上げました。これは、バリアフリーとエコロジーを体験し、社内を啓発していくためのグループで、1年を任期とした若手社員を主要メンバーとする約20名で構成されています。例えば、実際に障がいのある方をホテルにお招きし、どのように接客すれば安心していただけるかなどについてご意見をいただく体験・研修などを行っています。このような京王プラザホテルの取り組みに対し、「福祉のまちづくりに顕著な功績のあった」団体として2003年3月第1回「福祉のまちづくりを進める都民の集い」において、東京都より功労者感謝状が贈呈されました。

2004年には宴会場改装にあわせて、補聴器をお使いのお年寄りや難聴者の方が音声を聞きやすくする「磁気ループシステム」を導入しました。今後も、バリアフリー設備の拡充を図るとともに、「バーズアイ」などでの人材育成、マインドの醸成に努めていきます。

ユニバーサル・ルーム内

京王プラザホテル札幌のバリアフリー

京王グループ「京王プラザホテル札幌」は、2002年に開業20周年を迎え「人にやさしいホテルづくり」をキーワードに、障がい者や高齢者の方にも安心してホテルライフを楽しんでいただけるよう大幅な施設改修を実施し、札幌市福祉のまちづくり条例適合ホテル第1号（既存建物として）に認定されました。ソフト面でも、同年開催された「障害者インターナショナル世界会議札幌大会」における参加宿泊者の受け入れに合わせ、ホームヘルパー資格取得者の育成や接遇研修にも全社を挙げて取り組みました。

札幌市特定適合施設の表示

京王電鉄バスグループのバリアフリー

京王グループ「京王電鉄バスグループ」は、1998年度からノンステップバスを積極的に導入しています。2004年度は、路線バスの82.6%がバリアフリー対応（ノンステップバス46.7%、スロープ板付ワンステップバス30.7%、リフト付ミニバス5.1%）となり、バス業界ではトップクラスになります。お客様からは乗り降りしやすいバスとしてご好評をいただいており、今後すべての車両がバリアフリーとなることを目指します。また、高齢者疑似体験やデイサービスを通じた社員教育をそれぞれ1994年、2000年から継続的に実施しています。

ノンステップバス

地域社会
と
つながりあう

地域社会の発展、文化の振興という視点で、地域貢献に取り組んでいます。

京王電鉄は、企業市民として、地域との連携を通した社会貢献に取り組んできました。
地域社会の自然環境保全を目的とした「京王クリーンキャンペーン」もその取り組みのひとつです。
今後も地域社会や行政、学校などのステークホルダーをつなぐ存在を目指し、
環境保全活動やイベントの開催、「京王ニュース」など当社が発行する広報媒体による
地域コミュニケーションの推進などを通して、地域の発展・文化の振興に貢献していきます。

高尾山をテーマにした環境保全・社会貢献活動

京王クリーンキャンペーン

地域の貴重な自然環境の保全を目的に、1991年から、春は高尾山、秋は多摩川の清掃を行う「京王クリーンキャンペーン」を継続的に実施しています。ポスターなどで呼びかけ、グループ社員をはじめ、沿線地域の皆様や一般の方々にも多数参加いただいています。近年では、高尾山を訪れる方々のマナーが向上し、ゴミの持ち帰り運動が定着しています。

京王クリーンキャンペーン

「高尾の森再生」ボランティア活動支援

日本山岳会「高尾の森づくりの会」は、裏高尾の小下沢風景林をフィールドに、50年、100年の計画で、多様で豊かな森の復元を目指してボランティア活動を続けています。京王電鉄は、この会の主旨に賛同し、2002年から活動を支援するとともに、毎年約1,500本の広葉樹の植栽をお手伝いしています。

植樹の様子

髙尾山薬王院での子供達との修行体験合宿

高尾山は、明治の森高尾国定公園の中心となる599mの山で、山岳信仰の霊場として1200年もの歴史があります。京王電鉄は、1970年から毎年、髙尾山薬王院で子供達が修行を体験する「髙尾山峰中修行体験合宿」を主催しています。子供達にとっては、座禅・法話・写経・入滝など、学校の教室では得られない体験から、何かを発見する機会となっているようです。

沿線の子供達が参加する「髙尾山峰中修行体験合宿」

安全で快適、楽しく暮らせる社会づくりへの貢献

京王グループ感謝祭

京王グループ感謝祭は、お客様や地域社会への感謝・還元イベントで、本年で12回目を数えます。毎年10月、グループ各社の店舗で感謝セールを行うほか、気軽にクラシック音楽を楽しんでいただく「京王音楽祭」を開催しています。2004年度は、東京オペラシティで開催し、入場料を骨髄移植財団に全額寄付しました。

京王グループ感謝祭で開催された京王音楽祭

また、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターと商店街、地域のサークルが一体になってつくりあげていくイベント「せいせきフェスティバル」も開催しています。2004年度で4回目の開催となりました。10月の3連休に、縁日やキャラクターショーなどが繰り広げられます。連携イベントとして、「ふれあいウォーク in 多摩川」を開催しています。

せいせきフェスティバル

京王文化探訪

沿線を中心とした文化をお客様にご紹介することを目的に2004年度で15周年を迎える活動で、旅行やセミナー、講演会などを開催しています。京王電鉄にとっては、地域社会の顔である、神社・仏閣とのコミュニケーションを深める機会にもなっています。

京王フローラルガーデン・京王百草園

2002年、調布市に欧風庭園「京王フローラルガーデン　アンジェ」をオープンしました。緑豊かに整備されたくつろぎの空間をご提供するとともに、植物・ガーデニングなどに関する質の高い情報を発信し、沿線のお客様の豊かな生活に貢献しています。

また、1957年日野市から当社へ移管された日本庭園の「京王百草園」は、江戸時代から語り継がれる名園で、豊かな自然を残す多摩丘陵の一角にあり、特に梅の名所として沿線のお客様に親しまれています。

地域の憩いの場でもある
「京王フローラルガーデン アンジェ」

新潟県中越地震復興支援活動

2004年10月23日（土）に発生した新潟県中越地震の復興支援のために、京王電鉄が備蓄していた食糧や物資を送り届けました。25日朝にトップの意思決定を受け、現地で不足している物資を確認した上で、本社および沿線の備蓄倉庫から物資を集め、京王運輸のトラックに積み込み、26日17:00に小千谷市役所に到着しました。災害用仮設トイレ28基、乾パン・アルファ米などの食糧各1,000食分のほか、毛布、断熱マット、ブルーシート各500セットなどを届けました。

本社ビルに備蓄してあった物資

小千谷市役所で取材を受ける
京王運輸担当者

京王電鉄を知っていただくために

地域とのコミュニケーションの推進

地域へのコミュニケーション推進のための情報発信ツールとして「京王ニュース」（毎月120万部）や「あいぽりー」（年4回13万部）を発行しています。また、自治体や地元商店街、地元企業との懇談会を定期的に開催し、「イベントの協力要請」「工事のお知らせ」などの情報交換を行っています。

鉄道施設の見学会を開催

車両の検査・修理を行う若葉台工場などに小学生とその保護者の方をご招待して、見学会を開催しています。京王電鉄の企業活動を、より深くご理解いただくことを目的にしており、今後は環境保全などについてもアピールしていきます。

若葉台工場での見学会

経団連「企業広報大賞」を受賞

女性専用車両の早期導入と効果的告知をはじめ、「京王マナー川柳」によるマナー向上のための啓発活動、「京王ニュース」による地域コミュニケーションの活性化などが評価され、2003年度、（財）経済広報センターの「第19回企業広報大賞」を受賞しました。

表彰を受ける加藤社長（左）

行政
と
つながりあう

沿線地域社会の発展に向けて、行政とのコラボレーションを進めています。

持続可能な社会を実現するには、市民と行政、企業が
一体になった取り組みが重要とされています。
京王電鉄は、「京王グループ理念に合致する事業であること」
グループの総合力を生かし、「沿線地域社会の発展に貢献できること」
という視点を持ち、自治体とのコラボレーションを
積極的に推進しています。

高尾の森わくわくビレッジ

「社員が自ら企画したプログラムを実施するなど、京王グループのCSRの場としての活用にも期待します。」

京王ユース・プラザ
社長　佐原 拓爾

行政・民間との共同での社会教育施設運営

2005年4月、八王子市に新たな体験学習施設「高尾の森わくわくビレッジ」が誕生しました。この施設は旧都立八王子高陵高校（2004年3月閉校）の施設を活用し、新たな社会教育※1の場とする目的で、東京都がPFI※2方式で企画し、京王グループが社会教育の分野で豊富な実績を持つ東京YMCAグループとともに運営しているものです。旧高校の建物を壊さずに、内外装の素材や工法などで環境に配慮した改装工事を行い、教室や体育館などを積極的に再利用したほか、新たにテントサイトや宿泊施設、レストラン、研修室などを整備し、学校、青少年団体や地域のサークル、NPOなどに活動の場所として提供しています。また、養護学校などの団体利用にも考慮したバリアフリー化を心がけ、東京都の「福祉のまちづくり整備基準適合証」も取得しています。

青少年が健全な価値観を体得するきっかけの場

緑に囲まれた約65,000m²のビレッジでは、その自然環境を活かしたキャンプや自然体験活動が行われています。また東京都教育委員会と共催で、ボランティアの養成、子育て支援キャンプ、防災意識を高める避難体験プログラムなど、青少年が健全な感性・創造性・社会性を身につけていく「社会教育事業」を展開しています。

閉校した都立高校を改修整備した「高尾の森わくわくビレッジ」

※1 社会教育：
学校教育以外の場で、青少年・成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）の総称。

※2 PFI：
民間資金主導型の公共施設整備手法で、民間の資金とノウハウを活用して、効率的で効果的な公共サービスを提供する仕組み。高尾の森わくわくビレッジは、私鉄では都内で初めてのPFI事業です。

コミュニティバスの運行

東京都・多摩地区を中心に、地方自治体が中心になって、数多くのコミュニティバスの路線開設をしています。京王グループは、住みやすいまちづくり、もう一度訪れたくなるまちづくりの視点で、積極的にコミュニティバスの運営を受託しています。府中市、日野市、多摩市、調布市などでコミュニティバスを運行しているほか、2004年度は、渋谷区「ハチ公バス」の本町・笹塚循環「春の小川ルート」など、3つの自治体から4路線を新規受託しました。

渋谷区の「ハチ公バス」

株主とつながりあう

IR活動や株主優待の実施を通して、株主の皆様とコミュニケーションを図っています。

京王電鉄では、さまざまなIR活動を通じて、株主の皆様に「適正な情報」を「迅速・公正」に開示するよう努めています。
また、株主の皆様に、京王電鉄およびグループ各社に対するご理解を深めていただけるよう、株主優待をご用意しています。

適正な情報を迅速・公正に開示

四半期ごとの業績開示をはじめ、年2回の決算説明会の開催、事業報告書「けいおう」やアニュアルレポートの発行を通じて、財務や株式、営業の概況に関する情報を積極的に開示しています。

事業報告書「けいおう」

また、こうした開示資料やニュースリリースについては、ホームページ上でも開示するなど、「迅速・公正」な情報開示に努めています。

日本格付研究所からAAの評価

京王電鉄は、指定格付機関である（株）日本格付研究所から、AAの評価を受けました。「事業再編と財務体質強化が進み、収益力強化に軸足を移している」点などが、高い評価につながっています。

※詳細は、http://www.jcr.co.jp/Jdata/J9008.htm

株主の皆様への利益還元

京王電鉄は、株主の皆様への利益還元のために、1株あたり年間6円の配当を実施しています。今後も、長期安定的な配当の継続を目指します。また、2002年度以降、自己株式の取得を実施しています。1株あたりの価値を高めることにより、株主の皆様への利益還元につなげています。

株主優待の実施・改善

株主優待として、電車・バスの株主優待乗車証や、沿線で事業を行う京王グループ各社の優待割引券を発行しています。株主優待のご利用を通じて、株主の皆様に、京王電鉄およびグループ会社の事業を、より深くご理解いただきたいと考えています。
また、2005年度に株主優待乗車証の発行を「1,000株以上」に引き下げるなどの見直しを図りました。この新しい優待制度は、2005年9月30日時点の株主の方々から適用されます。

株主優待制度		株主優待乗車証	
		1枚1乗車有効の電車全線優待乗車券	優待パス
所有株式数	1,000株以上～30,000株未満	1,000株毎に4枚	―――
	30,000株以上～57,000株未満	30枚	電車全線優待パス1枚
	57,000株以上～	40枚	電車・バス全線優待パス1枚

さらに1,000株以上の株主の皆様は、グループ会社優待割引をご利用いただけます。

- 京王百貨店
- 京王プラザホテルチェーン
- 京王観光
- 京王自動車
- 京王運輸
- 京王アートマン
- 京王グリーンサービス
- 京王食品
- 京王不動産

社員とつながりあう

自立した社員一人ひとりが、仕事を通じて、よりよい社会づくりに貢献することを目指します。

京王電鉄は「信頼のトップブランド」を目指していますが、
実際に、お客様や取引先、地域社会とつながっているのは、
一人ひとりの社員です。私たちは、一人ひとりの社員が自立した人材となり、
仕事を通じて社会的責任を果たしていけるよう、
さまざまな社員研修や仕組みづくりに取り組んでいます。

社員のスキルアップ

人材育成

京王電鉄では、「自立した人材の育成」を社員教育・研修の主眼としています。近年では、グループ経営を踏まえた人材育成や、社員の適性に基づいた人材育成を、重点的に推進しています。

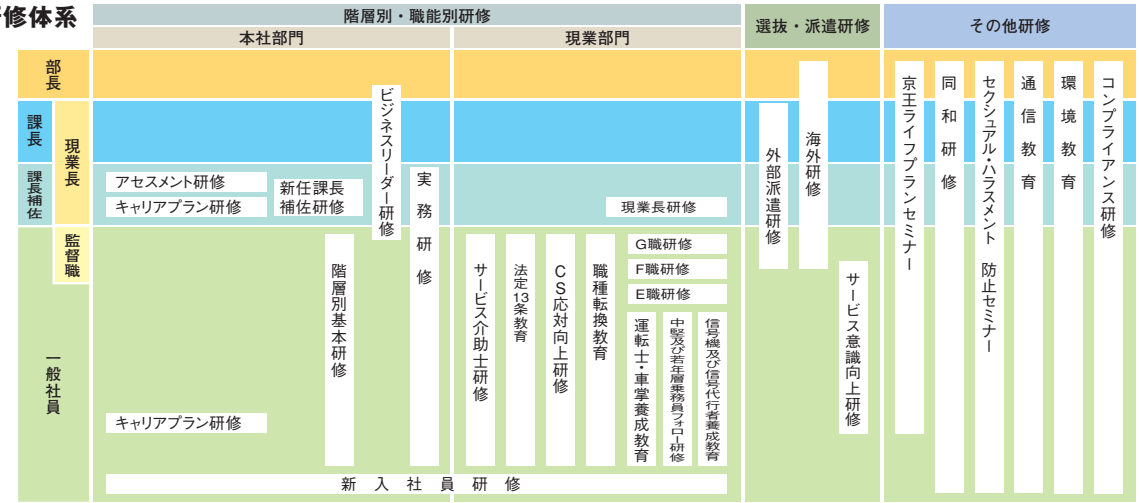
若手社員から中堅社員には、自分の強み・弱みを自己認識し、自身のキャリアを考える研修や、早期戦力化を目指した実務能力向上のための研修を実施しています。管理職層には、京王グループ全体の発展を視野に入れ、次世代のグループの経営者層へのレベルアップを図る研修を行っています。また、現業部門では、日常の安全管理の徹底や、お客様満足度向上のための研修を実施しています。このほか、通信教育や公募型研修などの自己啓発支援にも積極的に取り組んでいます。

CSRに関する教育・研修の充実

コンプライアンス研修

2004年度は京王電鉄社員およびグループ社員に対して、階層別・テーマ別など約50回にわたりコンプライアンス研修を実施しました。研修では行動チェック、コンプライアンスの意味・社会的背景の説明、ケーススタディ

教育・研修体系



のほか、ヘルプラインの周知徹底を行いました。その結果、コンプライアンス部門への相談も増えてきました。グループ社員全員が、日常業務にコンプライアンスの視点を取り込んでいけるよう、今後も啓発活動を展開していきます。

個人情報保護に関する研修

2004年度は、個人情報を取り扱う部門やグループ会社に対して、2005年4月に施行された「個人情報保護法」に関するセミナーを実施しました。特に、京王電鉄の商業開発部、SC（ショッピングセンター）をはじめ、京王プラザホテル、京王百貨店など、顧客情報を扱う部門には営業面でのポイントを中心に具体的なQ&A形式で実践的な研修を行いました。

環境教育

環境教育は一般教育、手順教育、専門教育の3つに分類されます。

一般教育は、現代の環境問題やISO、環境マネジメントシステム（EMS）を知ることから始まり、京王電鉄の環境方針や自らの役割などを理解し行動するために実施しています。2004年度は本社で勤務する部長以下全社員を対象に508名が受講しました。受講後は理解度チェックや質疑応答による教育効果の確認もあわせて実施しています。

専門教育では、各部でEMSが正しく運用され、有効であるかをチェックする「EMS監査員」を養成しています。教育は終日かけて行われ、2004年度は32名が課程を修了しました。

救命講習

多摩消防署の協力により、定期的に救命講習を開催しています。講習は約3時間で、毎回20～30名が受講しています。この講習は3年間有効で、本社および現業の約50%の社員が有資格者となっています。駅や電車内などで倒れられたお客様に心肺蘇生を行うなど、人命救助に役立っています。

救命講習

誰もが働きやすい職場づくり

健康管理

社員ならびに家族の健康維持・増進を図り、疾病を予防するために、聖蹟桜ヶ丘に「京王電鉄診療所」を開設し、内科健診、定期健康診断などを実施しているほか、産業医を中心とする職場訪問も行い、京王グループ各社の健康相談、生活指導、職場環境づくりの支援を行っています。また、社員のメンタルヘルスチェックを定期的に実施し、ケアのための相談窓口を設置するなど、心身両面のケアを行っています。

京王電鉄診療所

女性の登用

京王電鉄は1987年以降、毎年4年制大学卒の女性を総合職として採用しています。同業では比較的早い取り組みであり、2005年6月末までに3名が課長に就任しています。

育児休職制度

子供を養育し、引き続き勤務する意思のある社員が育児に専念するために、子供が満1歳に達して以降、最初の4月15日まで休職できる制度を設けています。また、子供を養育するものの、この制度を利用しない社員に対して、超過勤務を命じないことや、休職復帰後の社員に対する育児のための就業時間などに関する措置（子供が3歳まで・小学校就学前まで・小学4年まで）についても定めています。次世代育成支援対策についても今後推進を図り、仕事と家庭がより両立できる職場づくりに努めます。

障がい者の雇用

2004年12月に特例会社「京王シンシアスタッフ」を設立し、2005年6月現在、障がい者15名が社内施設の清掃業務などに従事しています。京王電鉄の障がい者雇用率は2.19%となり、法定雇用率1.8%を超えています。

地球
と
つながりあう

企業の社会的責任の一環として、グループ環境経営を推進します。

「かけがえのない地球環境」を守り、後世代に引き継いでいくためには、
私たち企業はもちろん、行政や市民が、それぞれの立場でつながりあいながら、
環境負荷の少ない「循環型社会」の構築を目指すことが不可欠です。
京王電鉄では、これまで各事業部門で様々な環境保全活動を行ってきましたが、
さらにグループをあげて活動を推進すべく「京王グループ環境基本方針」を制定しました。
今後も、企業の社会的責任の一環として、環境経営を推進し、
循環型社会の実現に貢献します。

鉄道の環境優位性

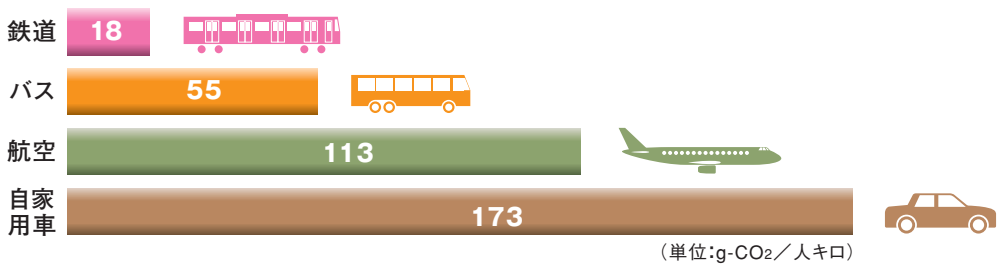
京王電鉄は、地球環境を守ることが企業の責務のひとつであると考え、環境問題への取り組みを経営の優先課題としてきました。なかでも鉄道は、比較的環境負荷が少なく、エネルギー効率に優れるため、他の交通手段からの利用転換による環境負荷低減が期待できることから、鉄道の利用促進に向けて、すべてのお客様に安全・快適にご利用いただけるよう努めています。

※ 各種取り組みについては7～10ページを参照。

京王グループ環境基本方針

京王電鉄は、事業活動の結果として、自然環境を害することがないよう環境保全について配慮し、可能な限りの措置を講じています。2000年11月に環境基本方針を定め、環境法令遵守は勿論のこと、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクルなどを積極的に推進してきました。環境問題に対する社会的関心が一段と高まるなか、京王電鉄では環境保全への取り組みはグループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」（右ページを参照）を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目について十分理解し、仕事に活かしていけるよう、環境教育などを通じて浸透を図っています。

1人を1km運ぶのに排出するCO_2の比較



出典：「運輸・交通と環境2005年版」（交通エコロジー・モビリティ財団）より

環境マネジメントシステム（EMS）

京王電鉄では、環境マネジメントシステムを「社長が定めた環境方針に基づき、全社員で環境目標を達成するための仕組み」と位置付けています。2004年6月に新設された経営企画部環境担当が中心となって、計画（Plan）を実行（Do）し、評価（Check）して改善（Act）に結びつけ、その結果を次の計画に活かす、いわゆる「PDCAサイクル」の考え方を、環境保全活動の推進に応用しています。
2004年度は、京王電鉄本社ビル内の業務を対象に、ISO14001に準拠したEMSの構築を行いました。本社ビル共通の目標を設定し、省エネ活動などを実践したほか、各部ごとの目標も設定し、環境保全活動に取り組みました。

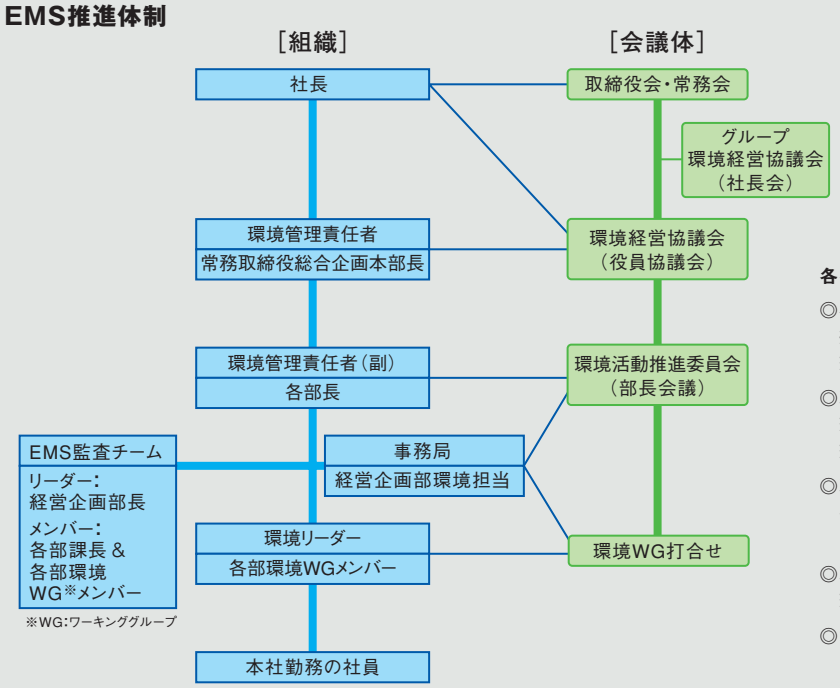
京王グループ環境基本方針

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

2004年12月9日制定

EMS推進体制



各々の主な役割

◎**社長**
経営資源を投入する、環境方針を制定する、環境管理責任者の指名などにより管理体制を整備する、など。

◎**環境管理責任者：常務取締役総合企画本部長**
環境影響評価の報告を受けるとともに、重点管理項目を承認し、環境経営会議に諮る、など。

◎**環境管理責任者（副）：各部長**
各部門の「目標必達システム設定表／管理表」の作成を指示し、内容を承認する、など。

◎**環境リーダー：各部WGメンバー**
環境影響評価を実施し、実行計画・手順書を策定する、など。

◎**本社勤務の社員**
「目標必達システム設定表／管理表」に記載された実施責任者の指示のもと、ルールに従って環境活動を実施する。

事業部門ごとに環境負荷を把握し、負荷低減に向けた活動を進めていきます。

京王電鉄の事業として、「鉄道事業部門」、土地、建物の賃貸業・販売業を行う「開発事業部門」の2つの事業があり、このほかに会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。
これらの各部門は、それぞれ事業形態が異なるため、重要な環境負荷も異なってきます。
2004年度は、各部門の環境負荷を集計しました。今後は、データの精度を向上させるとともに、継続的にデータを収集・分析することで、環境負荷低減に向けた活動に活かしていきます。

アスベストについて
アスベストの使用状況や飛散の可能性の有無について、京王電鉄を中心にグループ全体で調査を進めています。
今後、調査結果をふまえ、処理優先度が高いと判断したものから順次対応策を実施していきます。

鉄道事業部門の現業事業所

環境負荷の集計対象を電車の運行、駅など鉄道事業に関わるすべての事業所（本社を除く）としました。
2004年度の運転原単位（1車両が1kmを走行するのに必要とする電気使用量）は、2.825 kWh／car・kmでした。

INPUT

- 電気 310,230 千kWh
- 都市ガス 50 千m^3
- LPG 23 千kg
- 石油系燃料 303 kL
- 水 148,667 m^3
- 事務用紙 1,465 千枚

OUTPUT

- 一般廃棄物 1,466 t
- 産業廃棄物 1,427 t
- CO_2排出量 111,808 t-CO_2

開発事業部門の直接管理物件

環境負荷の集計対象を自社で直接管理しているショッピングセンターおよび京王フローラルガーデンとしました。

INPUT

- 電気 49,301 kWh
- 都市ガス 330 千m³
- 石油系燃料 11 kL
- 水 1,033 m³
- 事務用紙 678 千枚

OUTPUT

- 一般廃棄物 3,640 t
- 産業廃棄物 246 t
- CO_2排出量 18,397 t-CO_2

本社ビル・一般管理部門

環境負荷の集計範囲を本社ビル（鉄道および開発事業部門の各部署を含む）、診療所、平山管理センター（研修施設）としました。

INPUT

- 電気 2,010 kWh
- 都市ガス 10 千m³
- 石油系燃料 18 kL
- 水 1,294 m³
- 事務用紙 5,241 千枚

OUTPUT

- 一般廃棄物 80 t
- 産業廃棄物 10 t
- CO_2排出量 782 t-CO_2

省エネ車両の導入や、きっぷのリサイクルなど、鉄道事業の環境保全についてお知らせします。

京王電鉄は、環境にやさしい交通機関を目指し、「省エネルギー」「省資源・廃棄物削減」「騒音・振動の低減」などに取り組んでいます。2000年10月には、リサイクル活動への取り組みが評価され、リサイクル推進協議会が実施する「平成12年度リサイクル推進功労者等表彰」において運輸大臣（現 国土交通大臣）賞を受賞しました。

省エネルギー

省エネルギー車両の導入

電力を効率的に利用するため、VVVFインバータ制御装置、回生ブレーキを装備した車両を導入しています。

- **回生ブレーキ（搭載率：100%）**
  回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作用させ、発生した電力を架線に戻してほかの電車が使えるようにするものです。
- **VVVFインバータ制御装置（搭載率：48.8%）**
  VVVFインバータ制御装置とは、架線に流れる直流を交流に変換し、電車の加速力や速度に応じて電圧や周波数を変化させながら交流モーターを動かすものです。これにより電力を効率よく使用できるほか、保守に手がかからないという特徴を持っています。回生ブレーキとともに使用することで、従来の車両に比べて約30%のエネルギーが節約できます。

駅の省エネルギー

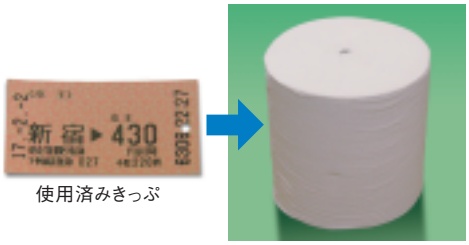
太陽光発電システムを明大前駅・若葉台駅・高幡不動車両基地に設置し、自動券売機や照明などの電力として使用しています。また、ホームやコンコースの屋根に自然光を採り入れることができる部材を使用することで、照明の消灯に努めています。さらに、半数以上の自動券売機がお客様が近づいた際にのみ主電源が入るようになっているほか、比較的お客様の利用が少ない駅のエスカレーターについてもお客様を感知して自動運転する装置を設置しています。このほか、高効率で消費電力を大幅に抑えた蛍光灯と導光板を用いた、内照式の業務用看板を順次導入しています。

高幡不動車両基地の太陽光発電システム

省資源・廃棄物削減

乗車券のリサイクル

各駅で回収された使用済みきっぷ（普通券・回数券）をトイレットペーパーに再生し、全駅で使用しているほか、使用済みのパスネットカードなどを材料の一部に用いたベンチをホームや待合室に設置しています。また、駅売店などで回収した飲料用ペットボトルを案内看板に再生し、全駅で使用しています。



使用済みきっぷ

トイレットペーパー
1個あたり約60枚の
きっぷが使用される

車両部品のリサイクル

車両を廃車する際、使用可能な部品については車両から取り外し、他の車両で活用しています。また、車両検査等の交換に伴ない処分する部品については、材料別に分類しリサイクル業者に引き渡しています。

材料毎に分別された部品類

車両・部品洗浄水の節水

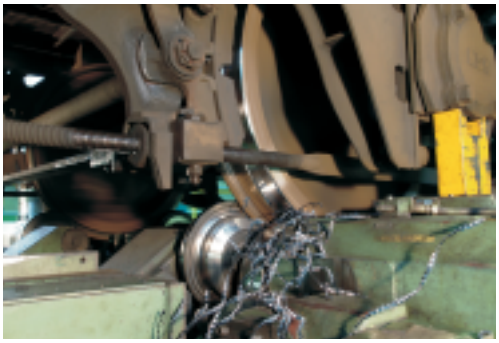
若葉台工場では車両や部品の洗浄等に用いる水の使用量を削減するため、「処理水再利用装置」を導入しています。この装置により使用済みの水の汚れを取り除くことで、洗浄水などに再使用することができます。現在、洗浄に用いる水の約40%は本装置により処理されたものです。

処理水再利用装置

騒音・振動の低減

車輪フラット発生の早期発見

雨天時の走行中のブレーキにより、車輪に「フラット」と呼ばれる平らな部分が発生すると、騒音・振動が大きくなります。京王線・井の頭線では、車輪の振動を自動的に検出するセンサーを沿線の各1箇所に設置し、車輪フラットによる振動・騒音の早期発見・早期改善に努めています。



車輪の削正

防音車輪の導入

カーブ区間ではレールと車輪がこすれ、車輪が微細に振動して「キーン」という高い周波数の音を発生させることがあります。これを低減させるため、防音車輪と呼ばれる車輪の振動を抑制する構造の車輪の導入を進めています。

鉄桁防音対策

鉄製の桁を用いている橋梁においては、下面および側面に防音材を設置するとともに、レールとマクラギの間には防振タイプレートを設置し、騒音・振動の低減に努めています。

ロングレール化

ロングレールとは、200m以上の長さのものをいいます。ロングレール化してレールの継目箇所を少なくすることで、列車の騒音や振動が減り、乗り心地も向上します。これまでに、曲線半径400m以上の敷設可能区間は、長大橋梁を含めロングレール化を完了しています。

化学物質の削減

シンナーの回収

台車や車体を塗装するためにロボットを使用しており、作業後のロボット清掃にはシンナーを用いています。若葉台工場では、ロボット清掃後に排出されるペンキが混ざったシンナーから、シンナーを分離・回収する「溶剤再生装置」を導入し、回収したシンナーを再使用しています。これによりシンナーの購入量は導入前に比べて半減しました。

環境保全

線路わきの環境保全

1991年度から、線路わきの雑草には除草剤を一切使用せず、人力による草刈りを行っています。また、お客様に楽しんでいただくことを目的として、井の頭線を中心に線路わきの斜面にサザンカ・ツツジ・アジサイなどを植栽し緑化を進めています。この取り組みは、2001年2月に第7回杉並「まち」デザイン賞を受賞しました。なお、植栽は降雨時の雨水の流入による斜面の崩壊防止にも役立っています。

工場排水

工場で車両洗浄などに使用して排出された汚水については、東京都下水道局が定める放流基準値を満たすように排水処理設備で油類・有機物を除去し、下水に放流しています。

京王電鉄の開発事業、一般管理、そしてグループ各社の取り組みを紹介します。

京王電鉄　開発事業部門

沿線の身近な地域環境の保全が、地球環境の保全につながるという考えを、テナントやお客様と共有しながら、活動を推進しています。

ショッピングセンターなどの商業施設

省エネに関しては、省エネ型空調・照明機器やガラス面遮熱シートの導入、事務所内での夏季軽装勤務などを実施しています。また、省資源・廃棄物削減に関しては、テナントの協力のもとに、ゴミの発生を減らし、※リサイクルを推進しています。

お客様の声（ご意見）や環境負荷とテナント負担コストの関連に配慮しながら、高い効果の見込める活動を積極的に推進しています。

※ゴミの発生を減らし、リサイクルを推進する取り組みは、27ページを参照。

オフィスビルなどの賃貸物件

既存の賃貸物件に関しては、空調機のインバータ化を進めるなど、電力使用量の削減に努めているほか、トイレの自動水栓化、雨水・雑排水の再利用を行うなど水使用量の削減も進めています。

京王品川ビル（省エネ施策を実施したオフィスビル）

京王電鉄　一般管理部門

2004年度より、京王電鉄本社ビルのEMS構築を開始しました。照明のインバータ化やゴミの分別・リサイクルなど、総務部が中心となったビル全体での取り組みに加え、各部署ごとに省エネや紙削減の目標を設定し、全員がもれなく活動に参加する仕組みを構築しています。

エコアップ推進デーによる啓発

毎週水曜日を「エコアップ推進デー」とし、昼休みの消灯や、定時退社を促進しています。2005年5月は、前年同月に比べて、1日あたりの消費電力が9.4%下がりました。これは、エコアップ推進デー以外でも、昼休みの消灯が励行されていることや、夜間も必要な照明のみを点灯するなど、社員の行動の変化によるものです。

また、2005年7月19日から9月16日まで、空調の設定室温を26℃から28℃に変更する夏季省エネルギー施策を実施しました。

わかりやすい分別ゴミ箱

京王グループ各社の取り組み

京王電鉄バスグループ

バスは鉄道と同じく環境負荷の少ない公共交通機関です。京王電鉄バスグループでは、1997年よりアイドリング・ストップ運動を開始し、翌年以降すべての新車にアイドリング・ストップ装置を装着しています。

燃料については、全営業所で低硫黄軽油を使用しているほか、CNG（天然ガス）バスも導入しています。さらに杉並区初のCNGスタンド「京王エコ・ステーション永福町」を営業し、一般の方にもご利用いただいています。

また、営業面からも、接遇の向上、路線網の充実、深夜バスなど輸送力の増強、「環境定期券」「ちびっこ50円キャンペーン」といった割引運賃制度など、良質なサービスの提供に努めています。

京王エコ・ステーション永福町

京王グループでは、「京王設備サービス」「京王建設」「京王百貨店」の3社がISO14001の認証を取得しています。

京王設備サービス

京王設備サービスが関わる「ビルの総合管理」「鉄道関連施設の保守管理」「設備工事」の各事業分野において、ISO14001の認証取得活動に取り組んでいます。すでに、神泉本社および京王百貨店事業所の2拠点は認証を取得しており、2005年度末までに工事事業本部でも認証を取得する予定です。

また、神泉本社は2005年9月に、認証取得後3年が経過し、新たな環境目標を設定しました。従来の紙の使用量削減、ゴミの減量化、電気使用量の削減に加えて、お客様の環境負荷削減に貢献するための改善策を企画提案するなど、各事業分野の本業を通じて、環境負荷削減に積極的に取り組んでいます。

京王建設

建築・土木・軌道工事を行う京王建設では、現場での混合廃棄物の排出、ホルムアルデヒド※などの室内環境汚染物質の発生、および本社での電力およびコピー用紙の使用を大きな環境リスクと認識し、数値目標を設定して、抑制に努めています。

混合廃棄物の排出削減のために、廃棄物分別スペースの確保および分別収集を推進しています。ホルムアルデヒド室内濃度低減に向けて、低ホルムアルデヒド仕様の建材採用率を向上させています。省エネに関しては、照明・空調・OA機器の使用低減、コピー用紙の削減に関しては、ミスコピーの再使用や電子媒体の活用を図っています。

また、排気ガス抑制のために自社および協力業者車両のアイドリングストップを実施しているほか、低騒音建設機械の導入や地域住民とのコミュニケーション促進も図っています。さらに、府中駅および本社周辺地域のゴミ拾いなどをボランティアで行い、環境美化に努めています。

※ホルムアルデヒド：
人体の遺伝子に影響を与え、強い発ガン性があり、また、喘息、アトピーの原因物質で最悪・最大の汚染物質といわれている。

混合廃棄物の分別収集

京王百貨店

京王百貨店では、電気使用量の削減、印刷用紙の削減、包装用品の削減、ゴミの減量化・分別の徹底を重点課題としています。空調や照明を省エネタイプに順次切り替えているほか、両面・縮小コピーの促進などを図っています。包装用品に関しては、計画発注と管理徹底のほか、お客様に簡易包装へのご理解をいただくなど啓発にも力を入れています。ゴミの減量化に関しては、新宿店で排出された生ゴミを処理機によって土壌改良剤とし、東京近郊の農家に配布し、そこで栽培した野菜を販売するというリサイクルを行っています。また、独自の規準に基づいて、環境に配慮した商品を認定し、「地球にやさしい商品」として展開しています。

今後は、新宿店、初台ビル、幡ヶ谷ビルで取得しているISO14001の認証範囲を拡大し、2005年12月には、聖蹟桜ヶ丘店、外商事業部を含むマルチサイト認証を取得する予定です。

新しいパートナーシップを構築し、循環型社会づくりに貢献しています。

鉄道事業が、モーダルシフトの促進など社会的トータルとして環境負荷を減らす効果を持っているのに対し、SC（ショッピングセンター）などの流通業は、まさしく事業活動の中で環境負荷低減を図らなければなりません。そこで常に「環境に負荷を与えている」という自覚を持ち、様々な取り組みを実施してきました。
現在は、京王グループという枠組みを超えて、テナント、リサイクル事業者、有機栽培の指導者といった方々との新しいパートナーシップや、お客様への啓発活動などを通じて、循環型社会づくりに貢献しています。

テナントを巻き込んだ仕組みづくり 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

流通業の環境負荷認識

SCの主な環境負荷は、「エネルギー」と「廃棄物」です。エネルギーに関しては、空調のインバータ制御や省エネ照明への変更といった直接的な省エネはもちろん、聖蹟桜ヶ丘SCでは1Fバスターミナル天井の塗装を変更し、照度を上げることで照明の使用を削減するなど、間接的な省エネにも積極的に取り組んできました。2005年度からは、アドバイザーとして省エネの外部専門家を加えたプロジェクトを開始する予定です。

テナントの分別意識啓発

廃棄物の削減に関しては、テナントが重要なパートナーとなります。店長会などでゴミ分別の重要性を説明し、さらに2005年1月から分別徹底と総量抑制のために、ゴミの処理費を重量に応じていただく形に変更しました。これにより、テナントの廃棄物削減に関する意識が向上し、2004年度のゴミ排出量が前年に比べ5％以上減少しました。
また、テナントによっては、リユースできる「通い箱」を使って商品を運搬するなど、すでに進んだ取り組みを行っているケースもあります。そこで、全館・全店舗のゴミ排出量を開示し、排出量の少ないテナントをベンチマークできるようにしました。

テナントのゴミ計量の様子

京王聖蹟桜ヶ丘SCの
テナント別・生ゴミ保管所

食品リサイクル法への対応

京王聖蹟桜ヶ丘SCから排出されるゴミの量は、年間約2,200トン、そのうち生ゴミが約600トンを占めています。2004年12月から、「環境リサイクルパッケージシステム」（右ページ参照）を順次導入し、生ゴミの循環利用を図っています。このシステムの導入により、「食品リサイクル法※」にいち早く高いレベルで対応したことになります。このシステムは、2004年12月にオープンした、京王高幡SCでも導入しています。

※ 食品ゴミ（食品廃棄物）を出す事業者に対し、2006年度までに「20%以上の再生利用等」を義務付ける法律です。年間100t以上の事業者には罰則があります。

お客様・テナントへの啓発活動

2005年6月には、店内で「せいせき環境展」を開催し、SCや各テナントの環境保全への取り組みをアピールしました。基本的な狙いはSCの姿勢を内外にきちんと明示するとともに、地域のお客様を私たちの環境保全活動に巻き込んでいくことにありました。環境保全（エコロジー）に誘導するアピールポイントは2つ、すなわち経済面（エコノミー）と精神面（ノスタルジー）です。経済面では「買物袋持参で割引」などお得なSC内店舗のサービスを紹介しました。
また、精神面では「地域密着型SC」ということもあり、「地球環境のために」というより、「地域環境のために」とアピールしたほうが、より理解いただけることがわかりました。今後は、お客様やテナントのご協力のもとに、多摩川などの地域環境保全に役立つ仕組みづくりにも取り組んでいきたいと考えています。

せいせき環境展の様子

生ゴミを循環利用するビジネスモデル 環境リサイクルパッケージシステム

生ゴミから消臭剤と堆肥をつくる

京王電鉄は、「環境」「シニア」「駅ビジネス」の3つを新規事業のテーマとしており、「環境」をテーマに立ち上げたのが「環境リサイクルパッケージシステム」です。このシステムは、京王電鉄のSC（ショッピングセンター）や京王プラザホテルなど商業施設から排出される生ゴミを回収・リサイクルし、消臭剤や堆肥をつくる循環型のビジネスモデルです。

廃棄物収集運搬は「（株）北辰産業」、リサイクル処理・堆肥製造は「（株）アグリガイアシステム」との業務提携によって行っています。このシステムでつくられた消臭剤は、トイレや生ゴミの悪臭（硫化水素系）を吸着する無臭の脱臭剤で、消臭効果が無くなった後（約2ヵ月の使用後）は有機肥料として土に混ぜて、野菜などを育てることができる完全循環型のリサイクル商品となっており京王線・井の頭線のトイレやSCのトイレで利用しているほか、京王ストアや京王百貨店などで販売しています。

京王電鉄は、このシステムをトータルコーディネートしており、グループ会社での実績をもとに、食品リサイクル法の対象となるグループ外の企業への提案も始めています。

バイオ消臭剤「消臭&肥料」

リサイクルから生まれた堆肥の活用

リサイクルから生まれた堆肥は、桜ヶ丘カントリークラブの芝に使用するなど、グループ各社で活用するとともに、この堆肥で生育した野菜は、おいしく安全な特別栽培の野菜として京王ストアで販売しています。

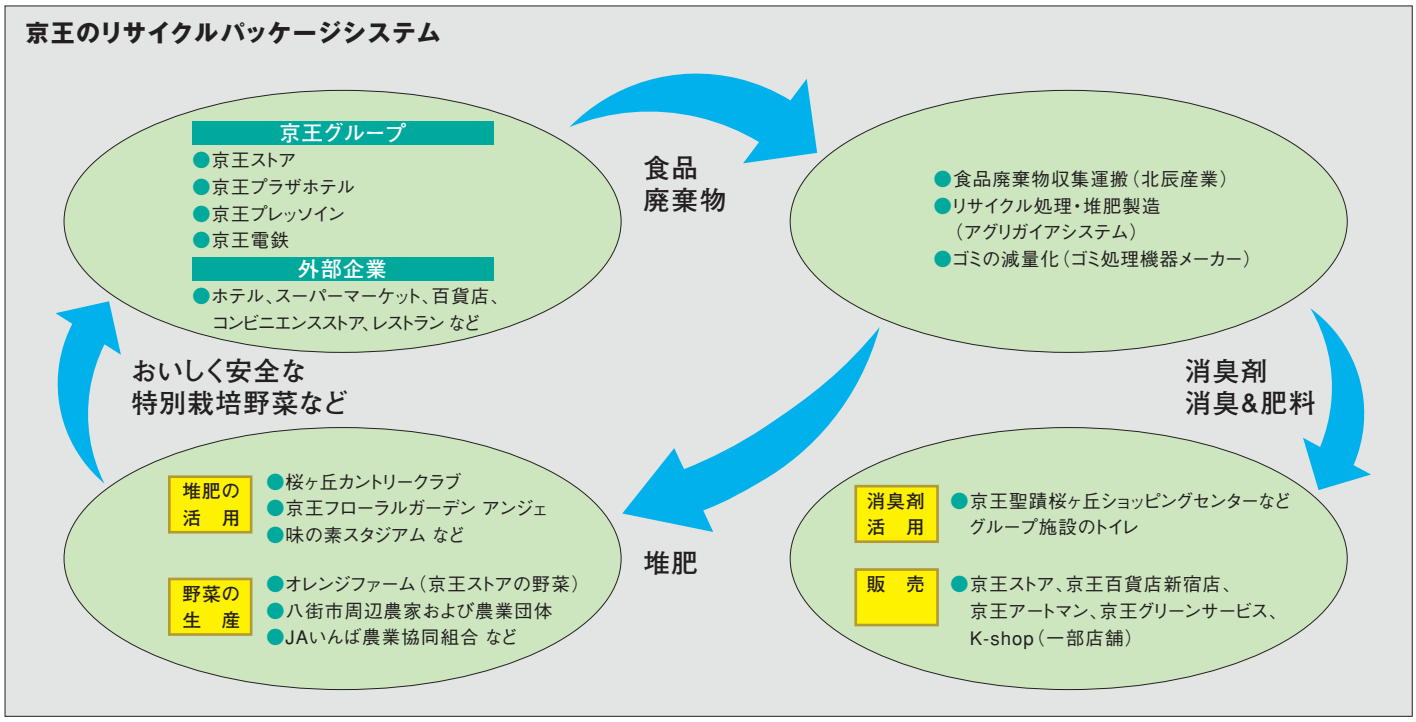
環境意識啓発の場としても活用

京王プラザホテルでは、社内から希望者を募り、リサイクル工場の見学会や農業体験を開催しました。ホテルから出た食品ゴミが堆肥となるまでの過程を見たり、実際に野菜や果物を育てている農家にお会いすることにより、分別の大切さを実感することができました。このような体験を通じ、循環型社会とは、多くの人が関わっている「環」だということに気付かされました。

ゴルフ場の芝生にも利用される堆肥

京王ストアで販売される
堆肥を使って栽培された野菜

生ゴミからつくられた堆肥



環境会計

2004年度の環境コストについて報告します。今後は、環境・経済効果についても開示していきます。

京王電鉄では、環境負荷の削減を目的に、これまでも車両や駅舎の省エネ、廃棄物のリサイクルなどに取り組んできました。さらに、環境保全コストとその活動により得られた効果を、より定量的に測定・把握・公表するために環境会計を導入しました。

公表の初年度である2004年度は、環境保全コスト（投資と費用）についてご報告します。2004年度の主な活動は、「ロングレール敷設」（騒音・振動防止）やVVVF制御化（地球温暖化防止）、廃棄物リサイクル関連工事（廃棄物抑制・リサイクル）などで、環境保全コストの総額は約44億円でした。

今後は、効果についても定量的に把握するなど検討を重ね、当社の環境保全活動をより客観的に反映できるよう努めていきます。

【対象期間】

2004年4月1日～2005年3月31日

【対象範囲】

対象期間内に京王電鉄株式会社で発生した環境保全コスト（京王グループ各社は含みません）

【集計方法】

1.「環境省環境会計ガイドライン（2005年版）」および民営鉄道事業者が事業の特徴を踏まえた環境会計情報を集計・公表することを目的に作成した「民鉄事業環境会計ガイドライン（2003年度版）」を参考にしています。

2.全コストとして確実に把握できる取り組みについてのみ計上しました。

3.費用額には減価償却費は計上しておりません。

環境保全コスト

（単位:百万円）

分　類		主な取り組み内容	投　資	費　用
（1）事業エリア内コスト			3,075	1,079
内訳	（1）－ ① 公害防止コスト	騒音・振動防止、水質汚濁防止	1,099	513
内訳	（1）－ ② 地球環境保全コスト	地球温暖化防止、オゾン層保護、省エネルギー、モーダルシフト	1,780	18
内訳	（1）－ ③ 資源循環コスト	廃棄物発生抑制、リサイクルほか	196	548
（2）管理活動コスト		環境マネジメントシステム構築、環境教育、事業所周辺の緑化	105	79
（3）社会活動コスト		自然保護	―	6
（4）その他コスト		機器更新による効率化等	35	7
合　計		コスト総計	3,216	1,172
			4,389	

百万円未満切捨

報告書に
関する
専門家の意見

報告書の継続的改善につなげるため、外部識者のご意見をいただきました。

当報告書は、京王電鉄にとって初めての「社会環境報告書」となります。私たちの事業や活動に即して、わかりやすく、体系的な情報開示に努めました。報告内容など、報告書の継続的な改善につなげるため、外部識者のご意見をいただきました。

相次ぐ企業不祥事、安全神話の崩壊などの記事が後を絶ちません。

いよいよ社会と共存できない企業は生き残れない時代が本格化してきたといってよいと思います。言い換えれば売上や利益といった指標だけでは企業を評価することができなくなってきたともいえるでしょう。

こうした中、京王グループ中核の京王電鉄が社会環境報告書を発行することは大変意義深いことです。

本報告書は、「つながりあう」をテーマに、お客様、地域社会、行政、株主、社員といったステークホルダー及び地球環境に対する活動が広く記載されています。特に連続22年鉄道運転無事故は一朝一夕に成し遂げられることではなく、日々の地道でかつ着実な活動の積み重ねが実った特筆すべき事象です。また戦後初めての運賃値下げや女性専用車両の早期導入など京王グループのユニークさを見て取ることができます。

ただ報告書の記載が取組中心であり、各々の取組に対する方針や目標、さらには今後の課題や方向性の記載がやや少なかったのは残念です。定量データの開示が増えればより信頼性も高まると思います。加えて、「つながりあう」というテーマに対し、企業側からの働きかけの記載が多く、ステークホルダーとの働きかけ（対話）の結果を企業経営にどのように活かしているのかといった記載が少ないように見受けられます。今後はこうした記載が増え、報告書が京王グループの社会に対するコミットが明確に打ちだされているようなツールにしてはいかがでしょうか。こうした取組は京王沿線の街ブランドの向上にもつながるのではないかと思っております。

株式会社トーマツ
環境品質研究所
代表取締役社長 古室正充

鉄道業界は、環境面でも輸送面のCO_2削減などで今後大きく期待される業界です。今後地球温暖化をはじめとした環境問題の対応に関しても是非とも業界そして社会をリードするような先進的な取組に期待しております。

「専門家のご意見をいただいて」

環境マネジメントに取り組んでから日が浅く、報告書の内容はこれまでの取り組みを中心としたものになった面もありますが、方針・目標を明確化することは活動を継続していく上で重要と考えます。定量データをより多く開示していくことと合わせ、今後の課題といたします。
また、ステークホルダーのニーズをつかむために、この報告書にアンケート用紙を添付して調査を実施しその結果を分析するとともに、対話のあり方についても検討していきます。
今回の報告書は、さまざまなステークホルダーと「つながりあう」をテーマにまとめたものですが、ご指摘いただいた内容を踏まえ、EMSの構築範囲をより広く、取り組み内容をより深く、具体的にしていくよう努めます。

（表紙の説明）

穏やかな顔をのぞかせている多摩川。いつもと変わることなく駆け抜けていく京王線。
少女はそんな風景がお気に入りということで、絵を描いてくれました。

京王電鉄は東京都心部と自然豊かな多摩西部とを結び、
多くの方々に環境にやさしい交通手段としての「鉄道」を提供しています。
世界的に環境問題が叫ばれる中、当社はこの自然を子供たちの世代に継承していきたいと考えています。
そのために、この都市と自然とをつなぐ環境負荷の小さい鉄道をこれからも発展させ、
より多くの皆様にご利用いただくことが最も社会に貢献することであると考えています。

京王電鉄株式会社

〒206-8502
東京都多摩市関戸1丁目9番地1

社会環境報告書に関するお問合わせ
総合企画本部 経営企画部 環境担当
TEL.042-337-3038
FAX.042-374-9811
URL:http://www.keio.co.jp/

この社会環境報告書の用紙は古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。
印刷インクには大豆インクを使用することで環境負荷の低減を図っています。

発行2005年9月